

<p>事案名</p>	<p>浜松市の事案（静岡県22-3）</p>
<p>分類</p>	<p>生産・保有 廃棄・遺棄情報 発見・被災・掃海等処理 現在の状況</p>
<p>資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「浜松陸軍飛行第7連隊の設置と15年戦争」『静岡県近代史研究』第12号、1986年9月〔1〕 ・証言（昭和48年調査）〔2〕 ・証言（昭和48年調査）〔3〕 ・「連絡発第6605号 浜名湖に投棄した軍需品について」昭和25年1月19日〔4〕 ・「旧軍隊の毒ガス容器発掘、処理に関する顛末」〔5〕 ・『毎日新聞』昭和51年7月30日夕刊〔6〕 ・『朝日新聞』昭和51年7月31日〔7〕 ・『毎日新聞』昭和51年7月31日〔8〕 ・『読売新聞』昭和51年7月31日〔9〕 ・『中日新聞』昭和51年7月31日〔10〕 ・化学室担当者ノート「戦後における旧軍毒ガス弾等の処理の状況(14.6)」〔11〕 ・『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査結果について（報告）平成15年9月26日〔12〕 ・航空部隊による毒ガス実験一覧表（タイトルなし）〔13〕
<p>資料内容概要</p>	<p>静岡県浜松市では、昭和11年12月に浜松陸軍飛行学校内に化兵班が設置され、昭和17年8月には水戸陸軍飛行学校の航空化学戦防護部門が移管されて化学戦教導隊が組織された。これは昭和19年4月に三方原教導飛行団として独立し、当時、陸軍中部第97部隊が使用していた三方原飛行場の一角にあった浜松演習廠舎に居を構えた。また、同市内には、第3陸軍航空技術研究所三方原出張所（航空化学戦研究所）も存在していた〔1〕。終戦時に、三方原陸軍教導飛行団と第三陸軍航空技術研究所三方原出張所が保有していた毒ガス缶は、浜名湖への投棄、また、同飛行団付近に遺棄した。戦後、それらの発見による被災事件が発生している（浜名湖の個表参照）。</p> <p>生産・保有情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・証言によれば、証言者（元三方原陸軍教導飛行団防護隊長）は、終戦時、三方原陸軍教導飛行団はイペリット缶80本（16トン）・ルイサイト缶20本（2トン）を保有していたと述べている〔2〕。 ・証言によれば、証言者（元第三陸軍航空技術研究所長）は、終戦時に、陸軍技術研究所三方原出張所にはドラム缶1本が存在したと述べている〔3〕。

	<ul style="list-style-type: none"> ・終戦時に、三方原陸軍教導飛行団にはイペリット・ルイサイトが缶で4～5本存在した〔4〕。 <p>廃棄・遺棄情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・証言によると、証言者（元第三陸軍航空技術研究所三方原出張所長）は、終戦時に、イペリット缶1本を旧引佐郡中川村またはその付近の地中に埋設したと思うと記載されている〔3〕。 <p>発見・被災・掃海等処理情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和51年7月30日に、浜松市でガス管工事中に地下約1mから直径50cm、高さ80cmのドラム缶を掘り出し、漏れ出したイペリットで作業員2名と住民6人が被災した。同毒ガス容器は東方化学課と陸上自衛隊第1師団が、ドラム缶にコンクリートに詰めにした〔5〕〔6〕〔7〕〔8〕〔9〕〔10〕。現場は、陸軍中野学校の分校と陸軍第97部隊（飛行教育隊）の跡地であった〔9〕〔10〕。翌日、同市保健所が現地付近で牛乳5検体、井戸水2検体の調査を行なったが異常は認められず、付近地中の毒ガス容器探査も実施したが他にドラム缶は発見されなかった〔1〕。発見された缶の大きさは、1高さ85cm幅80cmで、コンクリート詰めにして練馬に一時保管した後、海洋投棄したと記載されている〔11〕。 <p>現在の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜松市初生町には民家が多数存在し、井戸水も利用されている〔12〕。 <p>その他の情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和18年5月と同年10月に天竜でマスタードを使用したガス防御と効果の演習が行われた。また、昭和19年2月及び7月には三方原でマスタードを使用したガス防御と効果の演習が行われたと記載がある〔13〕。
--	--